

陸上運動部部便り

関東インカレ・国公立戦

2001年6月2日

目次

1	関東インカレ	
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	試合経過	1
1.4	試合結果	4
2	国公立戦	8
2.1	コーチの言葉	8
2.2	主将の言葉	9
2.3	試合経過	9
2.4	試合結果	12
3	2001年度部内5傑	16
4	主務より	17

1 関東インカレ

1.1 監督の言葉

11位 20点。女子に初得点 監督 八田秀雄

第80回の関東インカレは、5月13日国立競技場、18-20日横浜国際競技場で行われました。4日共天気はよく、風が強かったのですが、コンディションはまずまずでした。1日目は去年優勝の円盤出口がレベルが上がって今ひとつの37.65で5位。競歩の田辺が7位に入ったことは、うれしい結果でしたが結局6点。今ひとつで、横浜に移りました。2日目には期待の新人藤田が三段跳で8位14.43。1年生の入賞は篠山君以来でしょうか。3日目砲丸で出口が6位11.72。そして4x100mが8位42.67。最終日川添が棒高4.90の自己タイで2位で盛り上がり、4x400mが7位3.19.88。計20点総合11位でした。慶応と東洋が大量点を取ったこともあり、得点は88年に1位8点制が始まって以来の最低点となってしまう、少し寂しい結果となりました。ただし上位に入る力のある選手はいるので、来年から1部16校2校入れ替え制が始まりますし、私としては次に大いに期待していますし、また可能性を

信じています。

女子では院生の原が走り幅で7位5.70。東大女子に関東インカレで初めて点が入りました。高校、千葉大時代に全国入賞の実績がある選手ですが、さらに楽しみです。また彼女が加わったおかげで、4x100mにも出場でき、50秒52と健闘しました。今年から大学院もチームとしてまとまって参加するようになりました。リレーの初出場に続いて、ヤリでは岡野が3位で初の表彰台。さらに3000m障害ではこれまで優勝候補でも勝てていなかった新妻がようやく勝てました。最後の1000mを2分48秒台でカバーした見事なレースでした。大学院生が長距離種目で勝ったのは関東インカレ初めてのようです。広瀬のハンマー投げも加えて、東大大学院で16点を獲得しました。1部へは慶応と東洋が上がり城西が落ちてきます。来年は城西、千葉商科、上武、創価などと争うこととなりますが、今年のように際だって点を取りそうな大学は現時点ではないので、これからの精進に期待しています。

1.2 主将の言葉

今年の関東インカレは、大砲不在の上、出場選手も例年に比べ少ないということで戦前から苦戦を強いられることが予想されました。短距離陣では両リレーがなんとか決勝進出を果たしたもののわずかな得点に終わりました。

昨年大量点を挙げたフィールド陣は、1部校の大学院チームが2部校登録ということで昨年ほどの得点を挙げるには及びませんでした。しかしそんな中、1年生が3人出場したことが明るい材料と言えるでしょう。今大会、選手としてあるいは応援として関わったことで得た経験を一人一人が今後にかき、自己の記録の向上と、七大会、京大戦での勝利を目指していきたいと思えます。

1.3 試合経過

トラック 1日目(5月13日(日))

12:00 男子 4×100m 予選

3組 5レーンに 1走関水、2走鈴木、3走式場、4走青木の出場。

関水は得意のスタートが決まり一気に外のレーンに追い付いて行く。鈴木は前半の加速こそ順調であったものの最近の不調をひきずり後半で内側に追い付かれる。式場は一年ながら実力をみせ2番手を確実な物にする。青木は最近不調であったものの本番では力を出しませぬ走りで見せぬ。結果 42"16 でタイムで拾われ決勝進出。

4組 6レーンに 1走今田、2走藤原、3走長田、4走小西で東大院チームが出場。今田はスタートから順調な走りを見せませぬの位置で2走へ。藤原はバトン受けのときに少し減速したもののその後は実力通りの走りを見せる。長田はあわやゾーンオーバーかというバトンをうけたためか加速がつかず十分な走りができずに終わる。小西もバトン受けに手間取り走りが乱れ、実力を出し切れずにゴール。42"69 で決勝進出はならなかった。

12:40 女子 4×100m 予選

3組 8レーンに 1走帰山、2走原、3走中西、4走塩入の出場。

帰山はスタートのやり直しにも動揺せず前半から素晴らしい加速を見せ内側の他大学を引き離す。原は中盤からの伸びでさらに差を広げ中西へバトンをつなぐ。中西は日大等の他大学の内側からのプレッシャーにも動じず、よくねばり3、4番手でアンカー塩入へバトンパス。塩入は一年生ながらもアンカーという重役を見事に果たす安定した走りでゴール。結果、50"52 で、予選落ちではあったが東大新記録の誕生だった。

13:30 10000mW 決勝

田辺(3年)、村川(3年)の出場。一部校を中心としたハイペースの集団に二部校の選手もついていく中、二人は後方でじっくりとレースを進める。

フォームが懸念された村川は、膝の曲がりを修正できず、ペースを落としたものの、残念ながら途中失格。

一方、田辺は完全に一人旅となる苦しい展開ながらも一周 2'05"程のラップを我慢強く維持。集団から落ちてくる選手を拾い、また失格者も出る中、徐々に順位を上げていき、最終的には7位でゴール。記録は、52

'20"22。

初出場ながら2点を獲得し、タイムも炎天下の中、自己ベストにせまる健闘を見せた。

15:10 4×400m 予選

2組 5レーンに 1走高倉、2走石井、3走高梨、4走堀内の出場。

高倉はスタート直後からリラックスしながらスピードによって飛ばし、後半も快調な走りで2着争いを見せ2走へ。

石井は100m付近までやや出遅れるが、第3コーナーでは競り勝って3着を維持し、ラストは後続走者をつき離す。高梨はスタート直後一人にかわされるが、後半はねばりの走りで3着を追い込んでアンカーへ。堀内は50mで一人かわし前半は快調な走りだったが、思いの外後半のびずなんとか後続を抑えてそのままフィニッシュ。結果 3着 3'19"68 で決勝進出。

トラック 2日目(5月18日(金))

9:30 混成 100m

1組 4レーンに松林が出場。他の選手との実力の差もあり序盤から離され苦しい展開となるが松林自身はベストの走りをし、12"23 で606点を稼ぎ、最初の競技を終えた。

11:30 100m 予選

1組 5レーンに4年青木が出場。1回フライングがあった後、まずまずのスタートを切るが実力の差は否めず、序盤から差が開き得意の後半も差はつまずかず 11"23(-0.7) で7着に終わった。

2組 7レーンに院生藤原が出場。横一直線のスタートから激しい接戦のレースとなる。中盤以降3位争いとなりゴール直前追い込むものの百分の1秒届かず、おしくも 11"06(-0.9) の4着で予選落ちとなった。

13:30 400m 予選

1組 5レーンに3年堀内が出場。スタートのやり直しにも集中力を切らさず、まずまずのスタートでスムーズにバックストレートへ。150m付近から内側の選手に前に出られるが、焦ることもなくリラックスした走りで300m付近から2着の選手を追い込む。ラスト50mで2位にでるが、直前で一人にかわされ3着

でゴール。49"54で予選落ちであった。

13:30 3000mSC 予選

5年連続出場となる新妻(M1)の出場。ランキングトップの賞禄を見せて1度も先頭を譲ることなく、余裕の予選通過。ラップは3'01-6'08-9'08。

17:20 混成 400m

1組9レーンに松林が出場。落ち着いたスタートから自分のペースを守って200mを通過。内側の選手に抜かれていきラストは1人で走ると格好となるが、粘りを見せ55"83。1日目をいい形で締めくくった。

トラック 3日目 (5月19日(土))

9:45 混成 110mH

1組2レーンに松林が出場。序盤、中盤こそ快調に走っていたものの、インターバルが苦しくなったのか7、8台目を連続して倒してしまう。それでもその後をリカバーして17"31でゴール。

12:15 800m 予選

絶好の晴天のもとM1西村が悲願の関カレに出場した。序盤から積極的に飛ばし二番手でレースを進める。400mを56"8とまずまずの記録を狙えるタイムで通過した。だが450m付近で失速。500m過ぎで後続に次々と抜かれ、得意のスパートをみせることもなく、2'02"52の8着でゴール。しかし、前へ前へと出ていく姿勢からは関カレを全身で楽しむ様が窺えた。

14:30 3000mSC 決勝

大学院生の新妻(M1)が出場。優勝を狙って最後尾からレースを窺う。

1000m:3'07で先頭が通過すると、徐々に順位を上げていき、

2000m:6'09の通過時には3人の固まり。

あと2周で他の2選手にスパートされるとやや離されるが、残り500mで追いつくと逆に猛烈なラストスパート。

1周(720m強)70秒を切るキレを見せ、悲願の初優勝。

清水明氏の2連覇以来、19年振りに東大勢が表彰台の中央に上った。

15:20 4×100m 決勝

3組5レーンに1走関水、2走鈴木、3走式

場、4走青木の出場。

関水は無難にスタートを切るが相手も強く中で2走鈴木へ好パス。鈴木は徐々に離され6位争いをしながら3走式場へ。ほぼベストのパスを決め、6位になり差を保つ。しかし4走青木が加速時に肉離れを発症。気力でゴールするが42"67で無念の8着であった。

17:00 混成 1500m

十種最終種目の1500m。序盤から集団の真ん中に付け400mを68"8で通過する。しかしそれまでの種目の疲れから徐々にペースが落ち、2、3周目のラップも85"台まで下がると共に順位も後退。スパートを発揮することもできず、結局4'57"69でゴールした。

トラック 4日目 (5月20日(日))

10:00 200m 予選

2組9レーンに院生藤原が出場。スタートからインの選手に迫られるが、4番手あたりで食い下がり、ストレートへと出る。ストレートに出た後、後ろの選手の追い込みも見られたが、それほどではなく本人もねばりの走りをみせ、順位をほとんど変えることなく5着でゴール。タイムは22"07(+1.6)で自己ベストであったが予選落ちとなった。

15:20 5000m 決勝

この種目で4年連続となる新妻(M1)が出場。毎年シーズンベストを出しているだけに期待がかかる。

いつものように最後尾から徐々に順位を上げていくが今回は卒論・進学の影響による練習不足もあり、3000m:8'31通過以降、全くペースが上がらず入賞外。

障害とは対照的に残念な結果に終わった。

16:30 4×400m 決勝

2レーンに高倉(2年)-石井(2年)-高梨(6年)-堀内(3年)の走順で出場。1走の高倉は序盤、速い外側の選手を追いかけて快調にとばす。後半に入ってもそのスピードは落ちず、好位置で石井へとバトンを渡す。石井は果敢な走りを見せるが、気合いが入り過ぎたのか3コーナーで他校選手と接触。一度は前に出たものの、ラストで抜かれてしまう。3走高梨は精一杯の走りで、エース堀内につなげようとするが、周囲のレベルの高さはどうしようもなく、やや離される形となった。堀内は、10m以上あった差を徐々に詰めてゆくが、そこから前に出ることはできず、ラストも懸命

に追い込んだが届かずに、7位 3'19"88 という結果に終わった。

フィールド 1日目 (5月13日 (日))

10:00 ハンマー投

大学院生の広瀬、岡野の出場。広瀬はコンスタントにベストに近い記録を出し続け、45m76で7位に入賞。岡野は3投目に自己ベストを更新する36m97を投げて11位。

12:00 走幅跳

1年藤田の出場。入部して1ヶ月しか経っておらず走練も充分こなしていない状態で臨んだため、助走に本来のスピードはなくエイトには残れなかった。しかし、バネだけで6m47を跳んだあたりに実力の片鱗がうかがえ、本調子に戻ったときの対校戦での活躍が期待される内容であった

13:00 走高跳

3年の森下、藤原が出場。初の大舞台に臨んだ森下は、惜しい跳躍をしつつも、1m90を3回失敗、記録なし。関カレの高い壁を越えることはできなかった。試合前は絶好調で、自己記録の更新も狙っていた藤原は、1m90は1本でクリアするが、1m95を3回失敗。まさかの記録1m90。波を試合に合わせることができず、無念の涙をのんだ。

フィールド 2日目 (5月18日 (金))

10:30 混成走幅跳

3年松林の出場。1回目の試技で5m79と、自己ベストにせまるなかなかの記録をだしたが、2回目、3回目で記録をのばしていくことはできなかった。1種目めの100mに続いて、無難な記録を残して3種目めにつながった。

13:50 混成走高跳

関カレでは松林の自己ベスト・タイである1m65から開始されるため、記録なしに終わることが心配されていたが、練習跳躍からなかなか良い跳躍を見せ、本番でも1m65を一回でクリアした。次の高さは1m75まで一気に上がり、松林はなかなかの跳躍を見せたが、クリアはならなかった。

13:50 槍投

岡野 (M1) 出口 (3年) の出場。この日は風が強く、2人とも投げ出しの角度に苦労する。それでも岡野は2投目にこの日2番目の記録となる投擲をみせ決勝を決める。

その後やりが高めに浮いてしまい記録を伸ばせないも5位で迎えた6投目に2人を逆転し3位であった。

出口は結局1投目にだした記録を3投目まで伸ばすことができず9位でエイトもれしてしまった。

13:50 混成砲丸投

松林 (3年) の出場。松林にとっては決して得意といえない種目の砲丸投げではあったが、1投目、2投目、3投目と徐々に記録を伸ばしていき、8m08の自己ベストを出すことができた。

フィールド 3日目 (5月19日 (土))

10:20 砲丸投

4年田村、3年出口の出場。田村は1投目に10m09を投げるが2、3投目はファールに終わりエイトもれ。出口は1投目に11m74を投げ、2、3投目は記録を伸ばすことが出来なかったが6位でエイトに残った。4、5位は記録が近かったため残り3投で逆転を狙うが5投目の11m71を記録したのみで結局6位であった。

13:50 混成棒高跳

3年松林が出場。3m20を1回目、3m40を2回目でクリアするなど無難にいていたが風が悪く疲れがきていた事もあり3m60は跳べなかった。結果3m40で457点を獲得した。

13:50 混成円盤投

3年松林が出場。1投目は慎重にスタンディングで投げたがなんと24m05のベストを出した。2投目3投目はターンして投げたがうまくいかず22m04、21m60に終わる。結果24m05で349点を獲得した。

15:40 混成槍投

前種目の棒高跳で実力を発揮できなかった松林、9種目のやり投げで挽回を狙った。しかし競技時間のやり投げの試合場は強い横風が吹いており、松林に限らず実力を発揮できない競技者が多く、やりがフィールド外に着地してファールになるケースが目立った。松林はそんな中でも1投目に38m75を記録し自己ベストには遠く及ばなかったものの着実に得点を稼ぎ、最終種目1500m走につながった。

フィールド 3日目 (5月20日 (日))

10:00 棒高跳

3年川添が出場。4 m 5 0、4 m 6 0、4 m 7 0は1本目で無難に跳んだが4 m 8 0、4 m 9 0は3本目でなんとか跳ぶなど苦戦。5 mは疲れがピークにきていたため跳べず結果は2位。

1.4 試合結果

於 国立霞ヶ丘陸上競技場

・日本大学グラウンド (5月13日)

横浜国際陸上競技場 (5月18~20日)

100m 決勝 (+2.1)

順位	選手名	大学	記録
1	川島 年貴	東洋大	10"59
2	小野寺 道伸	慶大	10"73
3	石田 洋樹	千商大	10"73
4	鈴木 崇史	東洋大	10"77
5	鈴木 良法	山梨大	10"82
6	稲田 智広	玉大	10"84
6	村田 剛	東農大	10"84
8	結城 健太	慶大	10"95

100m 予選

1組 (-0.5)

7 青木 孝憲 東大 11"23

2組 (-0.9)

4 藤原 大二 東大院 11"06

200m 決勝 (-0.3)

順位	選手名	大学	記録
1	西川 優	慶大	21"20
2	川尻 陽平	東理大	21"48
3	楠岡 政裕	創価大	21"52
4	手塚 正博	東洋大	21"52
5	鈴木 崇史	東洋大	21"58
6	鈴木 陽平	山梨大	21"65
7	川島 年貴	東洋大	21"68
8	小野寺 道伸	慶大	21"75

200m 予選

2組 (+1.6)

5 藤原 大二 東大院 22"07

400m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	大竹 浩志	東洋大	47"60
2	岩丸 繕之	東洋大	47"62
3	楠岡 政裕	創価大	47"94
4	手塚 正博	東洋大	48"25
5	順田 高司	慶大	48"37
6	池田 大	慶大	48"45
7	永盛 圭一	茨大	48"69
8	和田 篤	慶大	48"73

400m 予選

1組

3 堀内 壮太 東大 49"54

800m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	東原 壮助	慶大	1'51"84
2	鴨田 賢次郎	慶大	1'52"86
3	池田 大	慶大	1'52"89
4	榎本 広貴	平成国大	1'53"96
5	巾崎 圭一	青学大	1'54"07
6	築田 昭夫	千商大	1'54"62
7	恒吉 奨	大東大	1'58"41

800m 予選

3組

3 西村 邦裕 東大院 2'02"52

1500m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	山本 卓実	神大	4'02"26
2	田子 康晴	大東大	4'03"32
3	星野 寛	平成国大	4'03"45
4	長澤 史郎	大東大	4'03"81
5	高岡 尚司	帝京大	4'03"82
6	田辺 公大	東洋大	4'03"94
7	杉原 由宣	東洋大	4'04"29
8	古賀 速郎	拓大	4'04"38

5000m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	J・カーニー	平成国大	14'02"84
2	吉村 尚悟	神大	14'09"47
3	尾田 賢典	関学大	14'10"90
4	中崎 幸伸	帝京大	14'12"17
5	三行 幸一	東洋大	14'15"11
6	吉川 裕也	専大	14'15"76
7	林 昌史	大東大	14'16"88
8	松下 龍治	駒大	15'31"37
14	新妻 拓弥	東大院	14'34"90

10000m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	F・ムヒア	平成国大	28'52"71
2	虎沢 峰敏	専大	29'15"49
3	尾田 賢典	関学大	29'25"76
4	松下 龍治	駒大	29'27"16
5	内田 直将	駒大	29'30"39
6	三行 幸一	東洋大	29'39"31
7	秋山 羊一郎	大東大	29'41"98
8	矢吹 和啓	専大	29'49"26

ハーフマラソン決勝

順位	選手名	大学	記録
1	前田 和之	亜大	64'30
2	神屋 伸行	駒大	64'59
3	相馬 雄太	神大	65'00
4	島田 健一郎	神大	65'07
5	池谷 剛	東農大	65'09
6	高橋 正仁	駒大	65'22
7	杉山 祐太	拓大	65'24
8	橋 義昭	大東大	65'44

110mH 決勝 (-0.2)

順位	選手名	大学	記録
1	小谷 友亮	横国大	14"75
2	小林 琢磨	平成国大	14"89
3	小林 豊	慶大	14"91
4	大橋 和彦	埼大	14"93
5	久恒 由彦	東経大	14"96
6	向田 直純	宇大	15"11
7	松浦 興一	上武大	15"33
8	安福 創史	神大	15"39

400mH 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	小林 豊	慶大	51"25
2	岩丸 繕之	東洋大	51"77
3	神山 太土	明海大	52"77
4	野中 達也	千商大	53"16
5	奈良 真吾	宇大	53"40
6	小森 崇申	慶大	53"58
7	長谷 直哉	東洋大	54"22
8	福富 健太	宇大	55"14

3000mSC 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	新妻 拓弥	東大院	8'58"91
2	和田 政志	拓大	9'02"61
3	仲野 旭彦	東洋大	9'03"01
4	立沢 慎太郎	青学大	9'09"55
5	永富 和真	東洋大	9'09"70
6	山口 栄二	大東大	9'09"73
7	高橋 桂逸	駒大	9'12"75
8	野村 顕弘	青学大	9'13"94

3000mSC 予選

2 組

1	新妻 拓弥	東大院	9'08"75
---	-------	-----	---------

10000mW 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	松崎 彰徳	東洋大	41'56"33
2	坪 一也	東洋大	43'33"63
3	向井 勝美	茨大	46'18"24
4	伊藤 潤一郎	慶大	46'59"80
5	大野 哲朗	東洋大	47'05"72
6	安藤 元博	千商大	51'29"54
7	田辺 匡亮	東大	52'20"22
8	千葉 順一	神大	52'57"30
	村川 雄一	東大	途中失格

4×100R 決勝

順位	大学名	記録
1	東洋大学	40"39
2	慶應義塾大学	40"52
3	千葉商科大学	40"89
4	山梨大学	40"92
5	東京理科大学	41"49
6	創価大学	41"72
7	埼玉大学	41"81
8	東京大学 (関水-鈴木-式場-青木)	42"67

4×100R 予選

3 組

2	東京大学 (関水-鈴木-式場-青木)	42"16
---	--------------------	-------

4 組

4	東京大学大学院 (今田-藤原-長田-小西)	42"69
---	-----------------------	-------

4×400R 決勝

順位	大学名	記録
1	慶應義塾大学	3'12"47
2	東洋大学	3'13"13
3	千葉商科大学	3'14"84
4	山梨大学	3'18"32
5	群馬大学	3'18"49
6	創価大学	3'19"07
7	東京大学 (高倉-石井-高梨-堀内)	3'19"88
8	千葉大学	3'23"94

三段跳

順位	選手名	大学	記録
1	中丸 信吾	順大院	15m68(+2.1)
2	大山 健	東学大院	15m12(+0.4)
3	植村 明人	上武大	15m11(+1.2)
4	金川 直弘	横国大	14m85(+3.2)
5	黒須 達也	平成国大	14m64(-0.7)
6	橘 清司	慶大	14m55(+1.6)
7	鈴木 隆彦	慶大	14m52(+2.2)
8	藤田 靖浩	東大	14m43(+1.5)

走高跳

順位	選手名	大学	記録
1	浜名 慶匡	順大院	2m13
2	古沢 広行	神大	2m05
3	大山 健	東学大院	2m00
4	渡辺 聡	宇大	1m95
4	瀧野 晃一	北里大	1m95
4	武藤 賢治	千商大	1m95
4	斎藤 雄大	国医福大	1m95
8	笹原 智浩	作新学大	1m95
	藤原 啓	東大	1m90
	森下 聡	東大	記録なし

砲丸投

順位	選手名	大学	記録
1	木村 研太	慶大	12m67
2	竹田 和広	埼大	12m50
3	芝池 慎介	慶大	12m30
4	藤田 健	慶大	11m90
5	坂上 由明	上武大	11m79
6	出口 雅俊	東大	11m74
7	市村 和寛	明海大	11m40
8	船山 泰宏	関学園大	11m30
	田村 潔	東大	10m09

棒高跳

順位	選手名	大学	記録
1	菅野 卓弥	順大院	5m35
2	川添 雄太	東大	4m90
3	坂本 雄作	中央学大	4m80
4	岡山 進也	茨大	4m70
5	保手浜 和幸	慶大	4m60
6	村上 浩史	茨大	4m40
7	三上 貴徳	千商大	4m40
8	高田 武蔵	群大	4m20

円盤投

順位	選手名	大学	記録
1	大塚 裕紀	慶大	45m24
2	青山 慎一郎	國土大院	44m08
3	友成 正	上武大	42m32
4	柴 真一	上武大	38m48
5	出口 雅俊	東大	37m65
6	沼沢 裕太	神大	37m31
7	大島 和幸	上武大	36m43
8	木村 研太	慶大	35m56
	岡野 浩行	東大院	21m81

走幅跳

順位	選手名	大学	記録
1	鈴木 隆彦	慶大	7m35(+1.1)
2	黒須 達也	平成国大	7m34(+1.2)
3	村井 健一	創価大	7m21(+1.2)
4	鈴木 剛	埼大	7m07(+2.8)
5	勝手 武文	防衛大	7m07(+2.4)
6	矢代 洋平	流経大	7m04(-0.7)
7	吉田 雄作	明海大	6m98(+1.3)
8	勝呂 真也	北里大	6m94(+2.6)
	藤田 靖浩	東大	6m47(+1.6)

ハンマー投

順位	選手名	大学	記録
1	竹内 亮	北里大	54m26
2	芝池 慎介	慶大	52m24
3	斎藤 和夫	上武大	51m66
4	岡田 拓朗	一橋大	49m89
5	藤田 健	慶大	48m30
6	友成 正	上武大	45m96
7	広瀬 立朗	東大院	45m76
8	田中 徹	東電大	43m09
	岡野 浩行	東大院	36m97

槍投

順位	選手名	大学	記録
1	福田 健治	創価大	59m25
2	涌井 祥史	上武大	58m03
3	岡野 浩行	東大院	57m50
4	三浦 努	東洋大	57m24
5	三田村 将史	千大	57m10
6	岩田 俊介	成蹊大	55m93
7	南端 省吾	流経大	54m56
8	高田 武蔵	群大	54m53
	出口 雅俊	東大	51m63

十種競技

順位	選手名	大学	得点
1	阿部 亮太	中央学大	6685
2	堀田 健一	創価大	5952
3	高橋 雅和	千商大	5866
4	高橋 由幸	中央学大	5719
5	原口 源	千大	5694
6	吉田 宙矢	成蹊大	5642
7	小川 俊幸	東洋大	5313
8	矢野 隆照	学習大	5260
10	松林 武生	東大	4985

2部校総合順位

順位	大学	点数
1	慶應義塾大学	139
2	東洋大学	116
3	平成国際大学	45
4	上武大学	41
5	千葉商科大学	40.5
6	創価大学	39
7	神奈川大学	38
8	順天大学院	24
10	東京大学	20

女子 4×100R 決勝

順位	大学名	記録
1	筑波大学	46"23
2	中央大学	46"44
3	日本体育大学	46"50
4	早稲田大学	46"97
5	日本女子体育大学	47"37
6	順天堂大学	47"63
7	東京学芸大学	48"41
8	東京女子体育大学	途中失格

4×100R 予選

3組

4	東京大学 (帰山-原-中西-塩入)	50"52
---	-------------------	-------

走幅跳

順位	選手名	大学	記録
1	山本 絵理	横国大	6m24(+1.8)
2	野田 恵	日女体大	5m86(-0.8)
3	菊川 恵子	筑波大	5m82(+3.5)
4	高橋 このみ	中大	5m76(+1.6)
5	木造 紫鶴希	中大	5m76(+2.5)
6	福沢 治世	東海大	5m70(+0.3)
7	原 樹子	東大	5m70(+3.0)
8	山口 麻美	日女体大	5m70(+1.1)

女子総合順位

順位	大学	点数
1	筑波大学	179
2	中央大学	98
3	東京学芸大学	86.2
4	日本女子体育大学	61.2
5	日本体育大学	51.5
6	國士舘大学	47.5
7	東京女子体育大学	41.2
8	早稲田大学	36
22	東京大学	2

2 国公立戦

2.1 コーチの言葉

コーチ 中谷 敬二

今年の国公立戦は、例年より早く関東ICの1週間後の、しかも曇り空で湿度の高い中の開催となりました。東大陸上部員の（とりわけ余り強くない部員の）これまでの試合への対応振りを見て、IC参加選手がエントリーしなかったり、どうでもいい他種目にエントリーすることを懸念したのですが、IC参加選手の多くが自分の専門種目にエントリーしてきたことには、今後の記録更新可能性を大きく感じました。試合程の負荷は練習でかけるのは困難ですし、試合に勝る練習はありません。今後の試合も、とにかく強い順にエントリーし、それにもれた選手はオープンに甘んじさせ、弱いうちは対校戦を経験させないという厳しさを臨んで欲しいものです。今年は4大戦が10月に延期されたことで、7大まで対校戦がありません。上手に記録会を使って、7大につなげて欲しいものです。

今回は、特に短距離で各種目に今後の可能性を感じさせる結果となりました。100mでは関水と1年の式場が夫々11"15, 11"17で3、4位。10秒台は2人共に近日中に実現の可能性が高いと思います。200mでは堀内が22"50、400mでは高倉、石井が夫々50"34, 50"49

で1、2位。2本目での結果ですから、まずはといえます。

800 mでは池田が1'57"22、5000mでは衛藤が15'43"23で夫々1位。記録的にはもうひと頑張り必要ですが、大きな自信になったはずです。

跳躍では、1年の藤田が幅で7 m 16の自己新、三段が14 m 63（追参）で、夫々圧勝。力の違いを見せ付けました。記録はまだまだ不安定で、改善すべき点多いのですが、その跳躍内容とセンスから、三段は今年中に東大記録の更新もあり得るかもしれません。

また、橋本も幅で6 m 65と着実に力をつけてきており、1年の吉岡と共に来年には7 mを目標とすることも冗談とは言えなくなってきました。棒高の川添は相手がおらず、4 m 60の後、4 m 80を失敗しましたが、これはICの疲れの影響もあると考えられます。今年中の5m征服を期待したいものです。高は、藤原の1m95が最高でしたが、他の選手もこの程度の高さでは競って欲しいものです。投擲では、大学院の岡野が円盤で34m台を投げ、今後の改善如何ですが来年の関東ICの得点可能性が少し出てきました。

女子では、軽い向い風の中の100mで帰山の12"94が主なところでしょうか。

2.2 主将の言葉

例年国公立戦は1年生にとってデビュー戦となり大学に入って数ヶ月、待ちに待った試合ということになります。まだ本格的な練習を始めて間もない時期であり、思うような記録が出ないこともあります。何よりも試合に出場したという経験は今後の陸上生活にとっては大きなステップとなることでしょう。一方上級生たちは関東インカレ1週間後ということもありやや精彩に欠ける試合になるかと思われましたが、予想以上の戦いを繰り広げました。全体で9人の者が自己新を達成しました。

次の七大戦まで2ヶ月ほど空いてしまいますが、これからはしばらくはじっくり腰を据えて練習に取り組みたいと思います。

2.3 試合経過

トラック

9:05 男子 1500m 予選

（1組目）4月にベストを出して上り調子の安達（3年）が出場。終始4番前後を走る危なげない内容で、ラストも4番手であることを確認すると、やや流してゴールした（4'14"30）。

（2組目）田中（4年）・笹原（2年）の出場。牽制し合って1周目は71秒。徐々にペースが上がるも、残り1周でもまだ集団。ラスト300mでばらけ、田中は3着を確保、笹原は打身の左膝をかばって5着だったが、プラスで決勝へ進んだ。

9:25 女子 100m 予選

2組目1年の塩入（4レーン）、3年の帰山（5レーン）が出場。

対抗戦にも関わらず、同じ組隣同士のレーンにおかれ、スタート前はやや緊張の表情が見られた。号砲一発、帰山が飛びだし力の差を見せ付け余裕の1着ゴール。タイムは13"06。個人デビュー戦となった塩入は前半やや遅れたものの中盤から本領発揮し徐々に前との差をつめ3着でゴール。タイムは13"97。追い風1.4。2人とも決勝進出。

9:40 男子 100m 予選

1組目4年の渡部（4レーン）、4年の関水（5レーン）が出場。

得意のスタートで前半は先頭集団につけた関水であったが中盤でトップの選手からやや離され、そのまま2着でゴールで決勝進出。11"34。まずはスタートを切った渡部は中盤で若干離され先頭集団から遅れて3着争い。ゴール間際でかわしきれず4着でゴール。11"59。追い風0.8。

2組目1年の式場（5レーン）が出場。

関カレのリレーで力強い走りを見せた式場はこの日も好調を持続。スタートから飛び出して先頭集団で接戦をくりひろげ、後半にかけてじわじわと他を離し、1着でゴールで決勝進出。タイムは11"24。追い風0.2。

10:20 男子 400m 予選

2組3レーンに石井、6レーンに林が出場。

石井はスタートから飛ばし後半やや減速するが最後は流す余裕をみせて1着でゴール。林は序盤から出遅れ、その後まきかえそうとするが体力が持たず、怪我で思うような練習ができなかったことが悔やまれた。

続いて、3組4レーンに高倉が出場。

最初から飛ばしてバックストレートでトップに立つ勢い。カーブから徐々に流してラスト100mも流して1着でゴール。

10:55 男子 110mH 予選

2組3レーン1年田中。5レーン3年松林。7レーン3年藤原が出場。

松林がスタートで飛び出すのが3台目辺りで

田中も含む後続に追い付かれる。藤原は出遅れ、8台目で転倒、失格。田中も先頭を争っていたが10台目でバランスを崩してしまい2位。しかし、松林も4位に入り、2人は決勝進出を決めた。

11:30 男子 800m 予選

予選1組：

三年山本の出場。練習から好調であった山本は予選からベストを狙いスタートから果敢に飛ばし先頭を奪う。先頭のまま400mを58"1で通過すると、500m地点であがってきた他選手二人にかわされてからも必死に喰らいつき1'58"87の自己ベストで3着。プラスで拾われ決勝へ進出。

予選2組：

四年池田(紘)の出場。1組目とは対照的にスローの展開となったがあせらず後方で待機。そのまま400m63"で通過すると、バックストレートでスルスルと前方へ進出。そのまま先頭を奪うと後は余裕の走りで2'06"25の一着通過。決勝へ。

予選3組：

三年藤本の出場。1組目の山本に刺激されたのか、スタートから先頭に立つ積極的な走りで400mを60"3で通過。しかしバックストレートで他選手にかわされると途端に苦しい走りとなってしまいます。それでも何とか2'02"18で3着に粘りきりプラスで決勝へ進出。

11:50 男子 200 予選

1組5レーン3年堀内が出場。1度フライングした後のスタートとなりやや出遅れる。70m付近でインの選手にかわされるが後半はスピードにのり接戦となる。前の選手の差を詰め結局3位でゴール。

2組3レーンに3年鈴木、6レーンに3年肥後が出場。

鈴木はスタートから順調にとばし、トップでストレートに出る。後半はややペースが落ちてかなりの接戦となり、わずかにかわされ、2着でゴール。肥後はスタートで大きく出遅れる。中盤持ち直したが、それでもあまりスピードは伸びず、5着に終わった。

13:30 女子 100m 決勝

4レーンに3年帰山。

スタートから調子良く飛び出すと早い段階で2位につける。そこから1位をうかがうも、

後半少しづつその差を広げられてしまい2位に終わった。しかし、記録は良く、12"94と工藤麻衣子コーチに並ぶ歴代3位の記録をマークした。

13:35 男子 100m 決勝

3レーンに1年式場。7レーンに4年関水。スタートから体が早く上がってしまい出遅れた式場は、持ち前の力強さで追いついたものの4位でゴール。関水はスタートから徐々にスピードを上げていき、徐々に前との差を縮めて3位でゴール。

13:40 男子 1500m 決勝

1周目は2人の選手が先行し、東大勢は64~65で通過。田中と笹原は7番手あたりにつけ、安達はやや後方。2・3周目はペースが落ち着くが、順位に変動はなし。先行した選手はそのまま逃げ切り、笹原は残り300mから上げるも、5位。前大会2位の雪辱は果たせなかった。七六800mは万全の体勢で臨まねばならない。田中はペースが上がりきらず、前半から足が流れていた安達も上位に食い込めなかった。それぞれに課題が残ったようだ。

13:50 女子 400m 決勝

3レーンに1年塩入が出場。

スタートから1つ外のレーンの選手が飛び出し、ペースがつかみづらかったが中盤ではスピードに乗り快調な走りを見せるもゴール付近ではバテ気味になりフォームが少し乱れるも粘って5位でゴール。

13:55 男子 400m 決勝

4レーン2年石井、8レーン2年高倉。予選1位ということで気を良くしたかスタートから飛び出した石井はバックストレートで早くも外側の走者をとらえる。高倉も一番アウトで走り難そうだったが軽快な走りをみせホームストレートでは石井と1位2位となる。その後高倉が追いつき石井をかわし1位。石井が2位に入った。

14:10 男子 110mH 決勝

6レーンに1年田中。8レーンに3年の松林が出場。

田中は1台目と2台目のハードルを倒し、バランスをくずすが中盤からもちなおし徐々に前との差を詰めていく。しかし前半の出遅れがたたって5位でゴール。

松林はまずまずのスタート。前半はハードルを倒さずスムーズに行くが中盤は若干離され

てしまう。後半8台目のハードルを倒し、失速して8位でゴール。

14:25 女子 800m 決勝

後藤（4年）の出場。学芸大2人が先行し、3人で3位争い。

後藤はずっと5番につける展開でレースは進み、ラストの直線で一人かわして4位であった。ラップは33-38-35-39で、2'25"56であった。

目標の2'25"を切るにはラスト200mが課題であろうか。

14:30 男子 800m 決勝

四年池田（紘）、三年山本、三年藤本がそろって出場。予選に続いて山本が果敢に先行。二番手以下を5m程引き離してレースを引っ張る。池田は二番手集団で様子を窺い、藤本が後方追走という形で400mを57"1で通過。そのあたりから徐々に池田が山本との差を詰め始めると500m地点で先頭に。山本は集団に吸収される形となる。池田は一瞬かわされそうになるも、ラスト100mで再びスパート。1'57"22のタイムで見事対校初勝利。続いて山本が粘りの走りで3位と同タイムの4位でゴール。1'58"86のタイムでまたも自己ベストを更新した。苦しい走りとなってしまった藤本も最後は意地を見せ、直線で一人をかわすと2'06"95の6位でゴール。最近の中距離パートの充実振りが遺憾なく発揮された好レースであった。

14:55 男子 400mH 決勝

2年今泉、3年加藤、4年河内の出場。

今泉はスタートから快調に飛ばし、バックストレートではトップ争いを演じるが第3コーナー辺りから足が合わなくなり8台目でひっかけ減速。その後足を痛めながらの必死の走りで粘り3位でゴール。

加藤はスタートから先頭の4人においていかれその後もスピードがあがらず苦しい展開。後半徐々に持ち直すが前との差はつまずかず、結局4位。

河内は8レーンという不利なレーンであったが前半から積極的にとばす。7台目あたりからリズムを崩し遅れる。ラストもリズムを崩したままゴールし5位であった。

15:10 男子 200m 決勝

2レーンに鈴木、3レーンに堀内が出場。

好スタートを切った鈴木はスムーズなコーナリングで先頭争いに加わると思われたが直線

に入り失速。何とか粘りをみせたものの7位でゴール。

堀内は前半外側の選手と互角にわたりあい直線に入って先頭からややおくれるものの3番手で降横一直線となり最後かわされ5位。

15:15 女子 3000m 決勝

後藤真紀子（4年）が出場。5人でのレースとなった。スタートから2人の選手が飛び出し、後藤を含む3人が第2集団を作る形になった。その中で1人が遅れ、後藤は3位の選手の後ろにぴったりついて走る展開。800m付近で後藤が前に出て引っ張るが、1600m付近でまた抜きかえされる。しかし、離れずほぼイーブンペースで我慢し、2300mで再び3位に上がる。そして2700mで一気に4位の選手を突き放してそのまま3位でゴール。タイムは11'04"77。今後につながる粘り強いレースであった。

15:35 男子 5000m 決勝

4年衛藤、3年相原、小山の3人が出場。スタートから衛藤が集団を抜け出すと相原がそれに付いてゆき3位以下を2~3m程離す。小山は第2集団のやや後方に位置する。しかし先頭を引っ張る衛藤は2人になってからペースがあがらず、1000mを通過は3'03"で通過した後は3位集団に追いつかれる。先頭集団が一団となってからも依然衛藤が先頭で引っ張るがペースは上がらず3000mは9'25"で通過。2000m付近から徐々に小山は先頭集団から遅れ始め、3000mを過ぎて他大の選手が集団から抜け出すと、衛藤はそれに続くが相原は急に苦しくなりその差は開いていく。4000mを過ぎると衛藤と東工大の選手2人の優勝争いとなるが、衛藤は残り300m付近でスパートをかけると2位の選手との差を一気に広げ、そのままゴールし優勝。先頭集団から脱落后、粘りを見せられなかった相原は6位、小山は9位でそれぞれゴールした。

16:05 男子 4×400m 決勝

1走高倉、好スタートからスピードに乗って周りの走者を引き離しそのスピードは衰えず1着でバトンを2走の高梨にわたす。

2走の高梨はオープンになったところから1位をキープし後続を引き離す。最終コーナーをまわってからかねばりの走りは衰えず。1着でバトンを3走の田口にわたす。

3走の田口はバックストレートで2位の走者

に追い詰められたが後半粘りラストの直線では再び差を広げるといふ大健闘の走り。

4走石井はもはや貫禄のある走りでトップを守り最後は余裕の1位ゴール。

フィールド

9:15 男子砲丸投決勝

阿部(2年)、松林(3年)、雪本(3年)の出場。松林は棒高跳と時間が重なる中、予選3投目では自己記録を更新する8m14を投げるが、わずかに及ばず予選落ち。

阿部、雪本はともに決勝に進む。決勝では、雪本は100mopenと時間が重なったために3投全てをパス。セカンド記録の差で敗れ、記録8m23、8位。阿部は、決勝の3投で記録を伸ばすことができず、記録9m25、5位であった。

9:45 男子走幅跳決勝

3年橋本、1年藤田、吉岡の出場。橋本は100mOPと時間が重なったため、2跳目までは低調な記録であったが徐々に記録を伸ばして6m65の4位。吉岡はblankが長かったが、それでも安定して6mを超える跳躍を見せ6m28の5位に入り、今後の成長が期待される。2週間前の関カレではいまひとつの結果だった藤田は、3跳目までで2位につけると5跳目に自己ベストを上回る7m16の大ジャンプで逆転し見事優勝した。東大に久しぶりに現れた7mジャンパーの活躍で対校得点を17点も稼ぐ好結果となり、2ヶ月後の七大会戦へ向け収穫の多い試合であった。

9:45 棒高跳決勝

3年川添、3年松林、2年島田が出場。島田は3mから挑戦したが初試合という事もありポールでバーを落としてしまい記録なし。松林は3m40を1回目で跳ぶも風が悪く3m60は跳べず5位。川添は4m40、60は無難に跳んだが80はアップライトを合わせられず4m60に終わった。しかし他校の選手の不調もあり不本意ながら1位。結果12点を獲得した。

12:30 女子走幅跳決勝

2年中西の出場。頻繁に変わる風の中、一跳目に4m86を跳ぶも、助走が安定しないため板に足を合わせることができず、結局その後記録を伸ばせないまま5位に終わった。

12:35 男子やり投決勝

3年松林と1年岸岡が出場。岸岡は初めてのフィールドでの大会ということで緊張があり、また調整不足もたたり23m37でエイトもれ。松林は痛みがあったものの2投目で41m56を投げエイトに残るが、後の競技のことを考え5投目以降はパスした。

14:05 三段跳決勝

鷹野(院生)、小笠原(2年)、藤田(1年)の出場。

期待の新人の藤田は2跳目に14m13を跳びトップのまま、その後6跳目に14m63と記録を伸ばし1位。

しかし、惜しくも追い風参考記録であった。鷹野は3跳目に12m71を跳び3位となり、その後記録を伸ばせなかったがそのままの順位で終了。

小笠原は体調不良のために練習不足になっていて、6跳目に12m02を跳ぶのが精一杯で7位。

14:15 走高跳決勝

藤原(3年)森下(3年)村口(2年)の出場。村口は助走がいまいちながら185cmまでを1跳目で跳ぶが自己ベストタイの190cmは跳べず3位。森下は185cmまでをよりリズムで1発クリアするが、190cmではリズムがみだれたため跳べず3位。藤原は195cmまでを1回でとび、2mでも非常に惜しい跳躍をみせたが結局跳べず、2位となった。

14:45 女子やり投決勝

3年帰山、2年中西の出場。帰山は1投ごとの助走の位置やリズムの調整がうまくいき、投げる度に記録を伸ばして最終的に23m38で自己ベストを3m伸ばして7位入賞。中西は3投目に30mを越える投擲を見せるが、やりが胴体着陸したために惜しくもファウルとなる。結局30mに惜しくも届かず、順位も微妙な差で敗れて5位。記録は6投目の29m36であった。

2.4 試合結果

第49回東京地区国公立大学対校陸上競技大会
於 上柚木公園陸上競技場

100m 決勝 (+1.1)

順位	選手名	大学	記録
1	高橋 健一	東学大	11"07
2	西町 崇	一橋大	11"12
3	関水 康伸	東大	11"15
4	式場 健太	東大	11"17
5	斉藤 亮一	農工大	11"29
6	住吉 康平	東工大	11"31
7	森 正樹	東学大	11"32
8	北原 聡	電通大	11"49

100m 予選

1組 (+0.8)

2	関水 康伸	東大	11"34
4	渡部 昌	東大	11"59

2組 (+1.2)

1	式場 健太	東大	11"24
---	-------	----	-------

200m 決勝 (±0.0)

順位	選手名	大学	記録
1	長宗 信太郎	一橋大	22"06
2	小島 直之	東工大	22"35
3	森 正樹	東学大	22"39
4	高橋 健一	東学大	22"45
5	堀内 壮太	東大	22"50
6	住吉 康平	東工大	22"68
7	鈴木 貴博	東大	23"05

200m 予選

1組 (+1.2)

3	堀内 壮太	東大	22"57
---	-------	----	-------

2組 (-0.7)

2	鈴木 貴博	東大	22"85
5	肥後 明佳	東大	23"62

400m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	高倉 栄男	東大	50"34
2	石井 康雄	東大	50"49
3	井上 真哉	電通大	51"39
4	外山 雄也	東学大	51"53
5	勝野 淳	東学大	51"59
6	松永 昌夫	東学大	51"68
7	花村 哲也	一橋大	51"80
8	桜井 一成	東外大	52"18

400m 予選

2組

3	石井 康雄	東大	51"54
6	林 健太郎	東大	54"19

3組

1	高倉 栄男	東大	52"74
---	-------	----	-------

800m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	池田 紘士	東大	1'57"22
2	小澤 亮太	東学大	1'57"84
3	磯部 芳泰	東工大	1'58"86
4	山本 晃祥	東大	1'58"86
5	船田 聡	一橋大	2'00"99
6	藤本 優	東大	2'06"95
7	松永 昌夫	東学大	2'07"76
8	関谷 卓也	東学大	2'11"02

800m 予選

1組

3	山本 晃祥	東大	1'58"87
---	-------	----	---------

2組

1	池田 紘士	東大	2'06"25
---	-------	----	---------

3組

3	藤本 優	東大	2'02"18
---	------	----	---------

1500m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	中村 勝則	東学大	4'03"96
2	成田 高央	都立大	4'05"84
3	岩佐 哲生	東工大	4'09"28
4	谷村 勝亮	東工大	4'09"72
5	笹原 翔太	東大	4'11"22
6	私市 成実	電通大	4'13"30
7	山形 哲行	東学大	4'14"82
8	田中 創	東大	4'15"34
9	安達 太一	東大	4'17"16

1500m 予選

1組

4	安達 太一	東大	4'14"30
---	-------	----	---------

2組

3	田中 創	東大	4'15"66
5	笹原 翔太	東大	4'16"87

5000m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	<u>衛藤 淳一</u>	東大	15'43"23
2	岩岡 敬祐	東学大	15'47"65
3	岩佐 啓生	東工大	15'47"79
4	川手 健司	東工大	15'49"63
5	川村 庸介	一橋大	15'53"33
6	<u>相原 佑康</u>	東大	16'01"55
7	夏井 聡亮	東学大	16'10"06
8	仲里 正亮	商船大	16'14"24
9	<u>小山 剛史</u>	東大	16'15"13

110mH 決勝 (-2.1)

順位	選手名	大学	記録
1	山下 良幸	東学大	15"15
2	笈川 貴行	都立大	15"86
3	中村 英仁	一橋大	16"36
4	町田 朋也	東学大	16"43
5	<u>田中 啓</u>	東大	16"86
6	中村 正志	一橋大	17"21
7	北村 直也	農工大	17"21
8	<u>松林 武生</u>	東大	17"26

110mH 予選

2組 (-2.8)

3	田中 啓	東大	17"17
5	松林 武生	東大	17"49
	藤原 啓	東大	途中棄権

400mH 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	外山 雄也	東学大	57"36
2	山形 哲行	東学大	57"68
3	<u>今泉 勇</u>	東大	59"31
4	<u>加藤 博之</u>	東大	60"68
5	<u>河内 一了</u>	東大	61"70
6	金子 真	農工大	63"46

4×100R 決勝

順位	大学名	記録
1	一橋大学	43"33
2	東京学芸大学	43"40
3	電気通信大学	43"95
4	東京工業大学	44"64
5	東京農工大学	45"47
6	東京外国語大学	46"00

4×400R 決勝

順位	大学名	記録
1	<u>東京大学</u>	3'23"38 (高倉-高梨-田口-石井)
2	一橋大学	3'25"19
3	電気通信大学	3'25"57
4	東京学芸大学	3'26"93
5	東京農工大学	3'29"21
6	東京都立大学	3'29"48
7	東京外国語大学	3'45"93

走高跳

順位	選手名	大学	記録
1	恩田 真太郎	東学大	2m00
2	<u>藤原 啓</u>	東大	1m95
3	<u>村口 和人</u>	東大	1m85
4	<u>森下 聡</u>	東大	1m85
5	徳力 宣夫	東工大	1m80
6	町田 朋也	東学大	1m75
7	西川 雄太	東工大	1m70

棒高跳

順位	選手名	大学	記録
1	<u>川添 雄太</u>	東大	4m60
2	阿部 仁	東学大	4m50
3	藤巻 克彦	東学大	4m20
4	沢辺 拓也	東学大	3m80
5	<u>松林 武生</u>	東大	3m40
	島田 俊雄	東大	記録なし

走幅跳

順位	選手名	大学	記録
1	<u>藤田 靖浩</u>	東大	7m16(+1.5)
2	村上 亮	都立大	7m03(-1.1)
3	石野 貴裕	東学大	6m65(-1.0)
4	<u>橋本 武</u>	東大	6m65(+1.6)
5	<u>吉岡 和夫</u>	東大	6m28(-0.8)
6	中村 英仁	一橋大	6m26(-0.7)
7	笈川 貴行	都立大	6m66(+0.4)
8	小玉 和史	東工大	6m16(+1.5)

三段跳

順位	選手名	大学	記録
1	<u>藤田 靖浩</u>	東大	14m23(+2.3)
2	村上 亮	都立大	13m97(±0.0)
3	中田 圭哉	都立大	12m97(+1.4)
4	<u>鴈野重之</u>	東大	12m71(+3.1)
5	村上 航	東学大	12m60(±0.0)
6	長岡 尚史	東外大	12m24(-0.9)
7	<u>小笠原 義之</u>	東大	12m02(+1.4)
8	小玉 和史	東工大	11m86(+0.3)

砲丸投

順位	選手名	大学	記録
1	田野 圭一	東学大	13m25
2	直井 典之	東学大	11m44
3	棟久 章	東学大	10m12
4	星 大樹	一橋大	9m36
5	阿部 太一	東大	9m25
6	神田 寛行	農工大	9m22
7	岡野 広	都立大	8m23
8	雪本 真治	東大	8m23
	松林 武生	東大	8m14

円盤投

順位	選手名	大学	記録
1	田野 圭一	東学大	39m29
2	出口 雅俊	東大	36m60
3	町田 朋也	東学大	36m22
4	小田嶋 誠	東学大	34m65
5	岡野 浩行	東大	34m55
6	栗原 靖之	一橋大	30m65
7	神田 寛行	農工大	25m05
8	松林 武生	東大	21m36

槍投

順位	選手名	大学	記録
1	武田 浩明	東学大	55m20
2	島田 裕章	東学大	46m86
3	星 大樹	一橋大	46m35
4	諏訪部 康太郎	都立大	45m43
5	藤原 周作	一橋大	45m09
6	松林 武生	東大	41m56
7	小山 竜一	東学大	40m37
8	西川 雄太	東工大	40m25

トラック順位

順位	大学	点数
1	東京学芸大学	102
2	東京大学	92
3	一橋大学	49

フィールド順位

順位	大学	点数
1	東京学芸大学	96
2	東京大学	82
3	東京都立大学	29

総合順位

順位	大学	点数
1	東京学芸大学	198
2	東京大学	174
3	一橋大学	70

女子 100m 決勝 (-0.2)

順位	選手名	大学	記録
1	金子 裕美	東学大	12"61
2	帰山 裕佳	東大	12"94
3	蜂谷 弥生	東学大	13"22
4	小森 めぐみ	一橋大	13"54
5	竹田 ゆかり	都立大	13"66
6	宮本 麻理子	都立大	13"73
	塩入 敦子	東大	棄権

女子 100m 予選

2組 (±0.0)

1	帰山 裕佳	東大	13"06
3	塩入 敦子	東大	13"97

女子 400m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	日色 さおり	東学大	56"39
2	田之口 明日香	都立大	60"68
3	宇野 智恵美	東学大	61"46
4	多田 千晶	都立大	62"85
5	塩入 敦子	東大	63"07
6	秋和 美穂子	一橋大	64"45

女子 800m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	宇野 智恵美	東学大	2'20"13
2	北村 奈夕	東学大	2'22"00
3	多田 千晶	都立大	2'25"01
4	後藤 真紀子	東大	2'25"56
5	長田 真紀子	東工大	2'26"55
6	田之口 明日香	都立大	2'29"69
7	高嶋 紀美子	東外大	2'47"96

女子 3000m 決勝

順位	選手名	大学	記録
1	坂本 寿美子	東学大	9'44"18
2	八木 洋子	東学大	10'26"46
3	後藤 真紀子	東大	11'04"77
4	植松 久恵	東外大	11'10"88
5	土田 容子	都立大	12'29"93

女子 4×100R 決勝

順位	大学名	記録
1	東京学芸大学	49"08
2	東京都立大学	52"18
3	一橋大学	52"87
4	お茶の水大学	56"14
	東京大学	棄権

女子走幅跳決勝

順位	選手名	大学	記録
1	山本 祐美	東学大	5m37(±0.0)
2	美宅 玲子	東学大	5m30(-3.1)
3	宮本 麻理子	都立大	5m15(+4.2)
4	小森 めぐみ	一橋大	4m98(-1.3)
5	中西 紅美	東大	4m86(+1.0)
6	田辺 美和	東外大	4m40(+1.1)
7	益岡 優子	都立大	4m39(+1.3)
8	堀越 彩香	お茶大	4m26(-0.4)

女子やり投決勝

順位	選手名	大学	記録
1	中村 恵	東学大	41m91
2	平河 香	東学大	35m47
3	小森 めぐみ	一橋大	30m32
4	田之口 明日香	都立大	30m03
5	中西 紅美	東大	29m36
6	大志保 光子	商船大	24m66
7	帰山 裕佳	東大	23m38
8	山本 絵里	東工大	17m22

女子トラック順位

順位	大学	点数
1	東京学芸大学	66
2	東京都立大学	39
3	東京大学	22

女子フィールド順位

順位	大学	点数
1	東京学芸大学	30
2	東京都立大学	13
3	一橋大学	11
4	東京大学	10

女子総合順位

順位	大学	点数
1	東京学芸大学	96
2	東京都立大学	52
3	東京大学	32

3 2001年度部内5傑

100m

1	関水 康伸 (4年)	11"15(+1.1)	5.26
2	式場 健太 (1年)	11"17(+1.1)	5.26
3	青木 孝憲 (4年)	11"23(-0.5)	5.19
4	鈴木 貴博 (3年)	11"52 (+0.9)	5.5
5	堀内 壮太 (3年)	11"58 (+0)	5.26

200m

1	堀内 壮太 (3年)	22"50 (+0.0)	5.26
2	鈴木 貴博 (3年)	22"85 (-0.7)	5.26
3	青木 孝憲 (4年)	22"89(+0.6)	3.25
4	肥後 明佳 (3年)	23"34(+0.0)	3.25
5	渡部 昌 (4年)	23"58(+0.5)	3.25

400m

1	堀内 壮太 (3年)	49"32	4.28
2	高倉 栄男 (2年)	50"34	5.26
3	石井 康雄 (2年)	50"49	5.26
4	高梨 幹生 (6年)	51"8	4.28
5	田口 暁之 (6年)	52"5	4.28

110mH

1	田中 啓 (1年)	16"86 (-2.1)	5.26
2	松林 武生 (3年)	17"26(-2.1)	5.26

400mH

1	加藤 博之 (3年)	58"8	4.29
2	今泉 勇 (2年)	59"31	5.26
3	河内 一了 (4年)	60"7	4.29

800m

1	池田 紘士 (4年)	1'57"22	5.26
2	山本 晃祥 (3年)	1'58"86	5.26
3	藤本 優 (3年)	2'02"01	4.7
4	安達 太一 (3年)	2'05"7	3.31

1500m

1	衛藤 淳一 (4年)	4'05"96	4.7
2	高橋 竜一 (2年)	4'10"0	5.3
3	笹原 翔太 (2年)	4'11"22	5.26
4	安達 太一 (3年)	4'13"2	5.3
5	田中 創 (4年)	4'15"34	5.26

5000m

1	衛藤 淳一 (4年)	15'34"34	3.25
2	相原 佑康 (3年)	15'46"87	5.3
3	高橋 竜一 (2年)	15'55"2	3.30
4	田坂 和彦 (2年)	16'00"92	5.3
5	田中 創 (4年)	16'03"6	4.7

3000mSC

1	相原 佑康 (3年)	9'52"24	4.7
2	高橋 竜一 (2年)	10'22"24	4.7

10000mW

1	村川 雄一 (3年)	49'53"8	4.8
2	田辺 匡亮 (3年)	52'20"	3.30
3	熊丸 拓郎 (3年)	56'10"7	4.1

走幅跳

1	藤田 靖浩 (1年)	7m16(+1.7)	5.26
2	橋本 武 (3年)	6m79(+2.0)	4.22
3	大堀 徳人 (5年)	6m52(+1.3)	4.7
4	吉岡 和夫 (1年)	6m28(+0.8)	5.26
5	小笠原 義之 (2年)	6m10(+0)	4.22

三段跳

1	藤田 靖浩 (1年)	14m43(+1.5)	5.18
2	小笠原 義之 (2年)	12m71(+0.5)	4.29

走高跳

1	藤原 啓 (3年)	1m95	5.26
2	森下 聡 (3年)	1m90	4.8
3	村口 和人 (2年)	1m90	4.16
4	阿部 太一 (2年)	1m85	4.8
5	松林 武生 (3年)	1m65	5.19

棒高跳

5	川添 雄太 (3年)	4m90	5.20
5	松林 武生 (3年)	3m80	
5	島田 俊雄 (2年)	2m80	

砲丸投

1	出口 雅俊 (3年)	11m74	5.19
2	田村 潔 (4年)	10m62	4.22
3	松林 武生 (3年)	8m08	5.18

円盤投

1	出口 雅俊 (3年)	37 m 65	5.13
2	松林 武生 (3年)	24 m 05	5.19

槍投

1	出口 雅俊 (3年)	51m64	5.18
2	田村 潔 (4年)	43m29	4.22
3	松林 武生 (3年)	40m78	5.19

4 主務より

主務 辻 拓一郎

関東インカレにいらっしゃって、芳名録に署名された方です。

今回は40名近くの方が応援にいらっしゃいました。ありがとうございます。ございます。

(敬称略)

卒年 氏名

1948	山崎 英也
1952	澤島 政行
1957	竜沢 俊文
1957	西尾 弘二
1958	浦野 穂昌
1960	笹治 峻
1963	井上 尚男
1964	八島 秀雄
1965	細越 峻
1968	小林 寛道
1979	中谷 敬二
1979	早道 信宏
1988	寺田 秋夫
1991	馬場 勝也
1992	松浦 幹太
1993	北澤 剛久
1993	桜井 亮太
1994	工藤 麻衣子
1995	林 徹也
1997	加藤 整
1997	矢野 貴利
1998	入倉 慎也
1999	明石 颯
1999	石部 享士
1999	工藤 洋治
1999	長谷川 達也
1999	保泉 学
1999	森田 理央
2000	今田 努
2000	加納 健史
2000	藤原 大二
2001	青木 孝
2001	稲澤 晋
2001	岡野 浩行
2001	佐々木 和岳
2001	鈴木 陽介
2001	新妻 拓弥
2001	本田 達也
2001	八木 創
2001	八木澤 一朗

編集後記

部員一丸となって目指してきた関東インカレが終り、1年生のデビュー戦とも言える国公立戦も戦い抜きました。この2試合、特に関東インカレは、上級生にとっても、新入部員にとっても大きな経験となりました。結果は満足のいくものとは言えないかも知れませんが、

今後につながるような悔しさや感動を得られたと思います。

これから先、試合間隔が空き、次の対校戦は、2カ月後の七大戦となります。この期間、じっくりと力をつけることができます。また、東京開催でもありますので、OB・OGの方々には競技場まで足をお運び頂きたいと思います。きっと、飛躍する現役部員の姿が見ることができると思います。

今後も陸上運動部に対しての御指導、御支援をよろしくお願い致します。

陸上運動部 部便り係一同